CONTENTS

TIPS – Claude Desktop & Igor Pro MCP Server 2

Igor Pro と Claude のインストール 2

Igor Pro MCP Server のインストール 2

Igor Pro の設定 3

Claude の設定 3

Igor Pro への接続 5

実行例 5

TIPS – Claude Desktop & Igor Pro MCP Server

Claude Desktop で Igor Pro MCP Server を使うまでのセットアップの手順を詳しく説明します。

ここでの環境は：
- Windows 11
- Igor Pro 10.05
- Claude for Windows 6.6935（Claude Desktop）

Igor Pro と Claude のインストール

Igor Pro は通常のインストールを行います。
Ifor Pro MCP Server と連携する必要があるため、10.05 以降をインストールしてください。
インストールは管理者ユーザーではなく、通常の Windows ユーザーで行います。

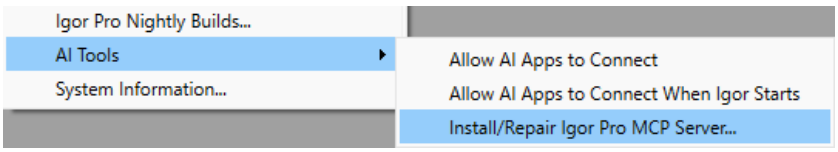
Claude のインストールも通常のインストールで行います。

セキュリティの関係から、管理者ユーザーでは動作しません。

Igor Pro MCP Server のインストール

このサーバーは、現在の Windows ユーザー向けにインストールされます。
インストーラーによるインストールでは、管理者権限は必要ありません。

Igor Pro 10.05 以降からインストールするには、Help→AI Tools→Install/Repair Igor Pro MCP Server を選択してください。



インストーラーが起動するので、順番に設定を行いながら進みます。



サーバーインストーラーは、デフォルトで次のフォルダーにサーバーをインストールします。

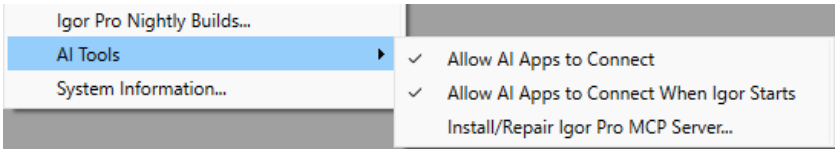
```
%LOCALAPPDATA%\Programs\WaveMetrics\Igor Pro MCP Server
```

インストーラーで別のフォルダーを選択することができます。
その場合は、Claude の設定を行う時に、デフォルトのフォルダーの代わりにそのフォルダーを指定してください。

ここではデフォルトの場所で進めます。

Igor Pro の設定

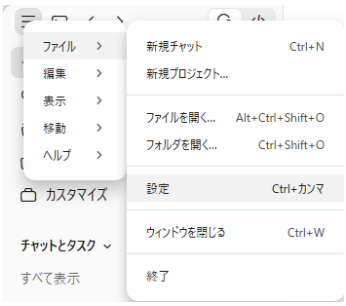
Igor Pro を起動し、Help→AI Tools→Allow AI Apps to Connect When Igor Starts を選択します。
これで、Igor Pro を起動したときに、自動的に Claude から接続できるようになります。



Claude から Igor Pro を起動できるため、一旦、Igor Pro を終了しておいて構いません。

Claude の設定

1. Claude を起動し、メニュー「ファイル→設定」を選択します。



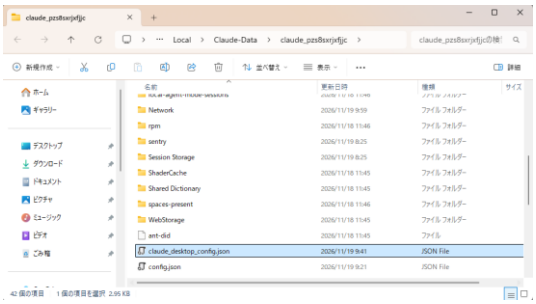
2. 画面左の「開発者」を選択します。



3. 「設定を編集」をクリックします。



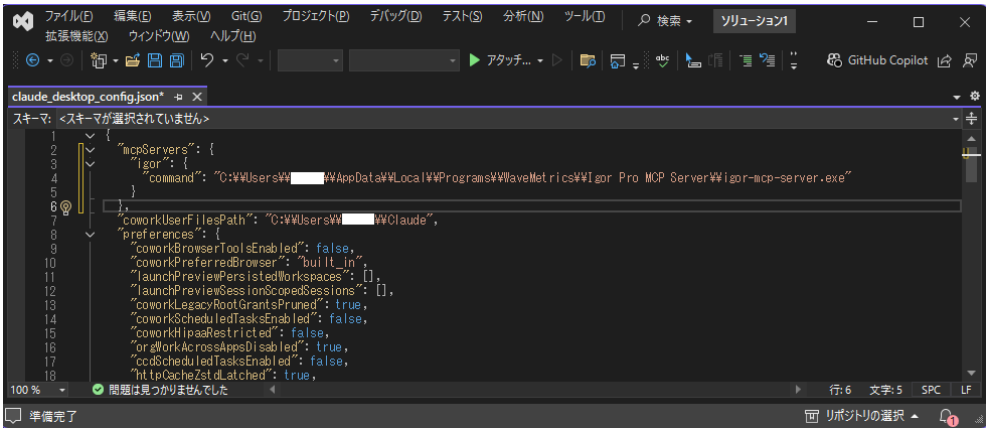
4. claude_desktop_config.json の場所が表示されるので、
   ダブルクリックして、エディタで開きます。



5. JSON ファイルの先頭に次の行を追加して、保存します。

```
  "mcpServers": {
    "igor": {
      "command": "C:\\Users\\USER_NAME\\AppData\\Local\\Programs\\WaveMetrics\\Igor Pro MCP Server\\igor-mcp-server.exe"
    }
  }
```

“USER_NAME” の個所は現在の Windows のユーザー名です。
JSON 設定ファイルでは、各バックスラッシュを２回記述してください。



6. Claude を終了します。

7. Windows のタスクマネージャーで、バックグラウンドで動作している Claude も終了します。

8. Claude を起動し、メニュー「ファイル→設定→開発者」
   を選択します。
   設定した Igor Pro MCP Server が表示されます。



これで設定は完了です。

Igor Pro への接続

サーバーは、すでに実行中の Igor Pro に接続するか、AI が代わりに Igor Pro を起動します。

AI が Igor Pro を起動すると、Igor Pro はサーバーからの接続を受け入れる準備が整います。
AI は、別のバージョンを起動するよう指示しない限り、最も新しくインストールされたバージョンの Igor Pro を起動します。

自分で起動した Igor Pro を使うには、AI アプリがそれに接続できるようにする必要があります。
Igor Pro は、ユーザーが許可しない限り接続を受け付けません。
Help→AI Tools から、Allow AI Apps to Connect または Allow AI Apps to Connect When Igor Starts を選択します。

接続を許可している Igor Pro が複数ある場合、サーバーは最も最近起動された Igor Pro に接続します。
その後、たとえ別の Igor Pro を起動しても、その Igor Pro が実行中で接続を許可している限り、サーバーはその Igor Pro に接続し続けます。

実行例

Claude のプロンプトで、例えば、次のように入力します。

「Igor Pro 内でノイズを含む２次元サンプルデータを作成し、それを２次元 FFT して、結果を視覚的に表示して」



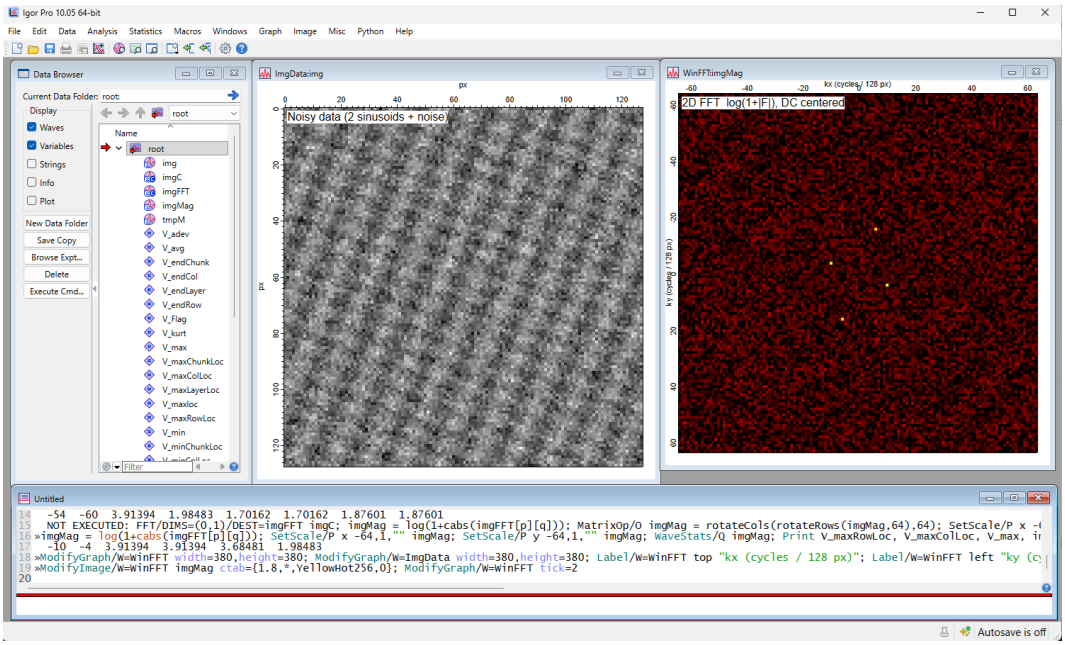
実行が始まると、右のような表示がされることがあります。
「常に許可」を選択すると、今後このような表示の回数が少なくなります。

Igor Pro の画面を見ると、ウェーブが生成され、各種処理や表示が行われていることがわかります。

すべてが終了すると、Claude では次のような結果が表示されます。



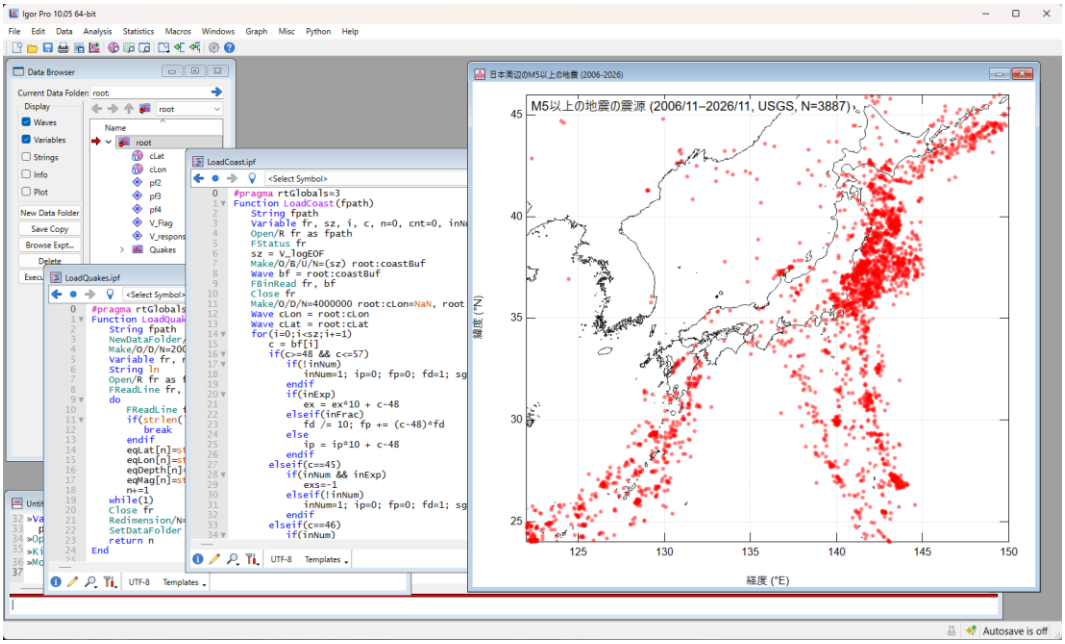
Igor Pro 側を見ると、次のように、AI が実行した結果が表示されます。



Claude のプロンプトで、次のように入力します。

Igor Pro 内で日本地図の上に過去２０年間に発生したマグニチュード５以上の地震の震源の位置を赤丸のマーカーでプロットして

日本地図を Natural Earth から取得し、USGS から地震のデータを取得して次のような結果が表示されます。



この実行において、Claude 内の出力は、次にようになりました。

震源データ 3,887 件を読み込めました。次に日本地図（海岸線）を Natural Earth から取得します。

Igor Pro 上に、日本地図の上へ震源を赤丸でプロットしたグラフ JapanQuakeMap を作成しました。

データ

- 震源データは USGS 地震カタログから取得しました。期間は 2006/11/20～2026/11/20、M5.0 以上、緯度 20～50°・経度 120～155°の範囲で、3,887 件です。
- 海岸線は Natural Earth の 10m land データ（約 45 万点）を使っています。

グラフの内容

- 日本列島の海岸線（黒線）の上に、震源を赤丸マーカーで表示しています。重なりが分かるよう、赤丸は半透明にしています。
- 表示範囲は経度 122～150°E、緯度 24～46°N です。この範囲外の震源（千島列島側など）はグラフ上では見えません。
- 東北沖（2011 年東北地方太平洋沖地震とその余震域）、伊豆・小笠原～マリアナ方向、南西諸島～台湾方向に震源が集中しているのが見えます。

Igor 内のオブジェクト

- 震源の波形は root:Quakes:eqLat / eqLon / eqDepth / eqMag、海岸線は root:cLat / cLon に入っています。
- LoadQuakes.ipf と LoadCoast.ipf が一時フォルダに残っています。再利用するなら保存してください。